

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

神奈川 大学 玉井義浩 ゼミ D パート

14

部門番号 部門名 b 環境経済論

テーマ 世界の資源問題と地球温暖化問題

サブテーマ 省資源、低炭素社会の実現のための方策

趣意文

アメリカのトランプ大統領が COP21 のパリ協定からの離脱を表明したほか、地球温暖化問題についての無知と偏見を露呈し世界中を呆れさせているが、地球温暖化問題に代表される環境問題は喫緊の課題である。特に「食品ロス」のような資源の無駄遣いが横行している先進工業国の責任は重い。この全地球規模の問題の解決にあたっては、(1) 問題に対する科学的な知見、(2) これまで CO₂ を排出して経済成長を遂げた先進工業国の責任の明確化、(3) (2)を踏まえた上で、発展途上国の経済成長への権利と温暖化対策という相反する利害の調整に対する長期的なコミットメントとともに、(4) 食料も含めた 今後の資源の需給問題についての理解が不可欠である。本研究では(1)から(4)にわたり、問題の現状を把握した上で、CO₂ を排出しないエネルギー源としても注目を集めた原子力発電を温暖化対策の手段とするか否かも含め、温暖化問題の解決のための方策を論じる。特に、食品ロスの解決も含めた、省資源社会の実現と、温暖化対策のための経済学上の処方箋として挙げられてきた「排出権取引」と「環境税」にスポットを当て、省資源社会、低炭素社会の実現のための法的経済学的な対策を論じる。排出権取引や環境税については、それらの対策がなぜ、どのような場合に効果的であるのかを、理論および、これまでの導入事例についての実証研究から論じる。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

中央 大学 林光洋 ゼミ 環境 パート

14

部門番号

部門名 環境経済論

テーマ 一般廃棄物の分別について

サブテーマ 報酬と罰則のどちらが分別行動を促進するか

趣意文

現在、発展途上国では廃棄物の処理が問題となっている。特に東南アジアの国々では、一般廃棄物の分別が十分になされておらず、混合廃棄物を分類・焼却を正確かつクリーンに行う施設が整っていないため、廃棄物を埋め立てて処理している。そこで私たちのグループでは既存の処理技術で対応できるように、排出者に分別して廃棄させるにはどのようにしたらよいかについて研究している。

一般廃棄物とは家庭や商業施設から出るごみのことである。その分別には捨てる側の意識と行動が重要であるが、意識付けは甚だ容易ではない。そこで様々な地域で、ごみの分別における排出者の意識付けを目的とした活動が盛んに行われており、持ち込んだごみと穀物を交換する地域から分別をしない者に対して罰金を科す地域まで多種である。

ここでは住民の意識啓発を目指す活動について、報酬によるものと罰則によるもののメリット・デメリットを比較した場合、どちらが分別行動を促進するかを討論したい。